

総合的に使いやすい構造用合板

加工・施工しやすく供給安定

ボラスグループの加工では、他の部材では加工機械の刃物の交換などが必要となるので、敬遠されることが多い。構造用合板は住宅用部材として取り扱っている資材なので、通常の加工の一環として対応することができ、施工の面から見ても、重量が比較的軽く、水ぬれにも強い。何よ



ボラス暮らし科学研究所
構造グループ長
照井清貴氏

り、現場で作業する職人たちが取り扱いに慣れているので、施工精度の面から考えても安心できる。大地震で

ている。今後、耐力壁ではパーティクルボードやOSBなど他の面材の需要が拡大してくる可能性もあるが、それでも床や屋根野地は合板が使われるように思う。

最近では、合板の木目を意匠として使うなど以前は想定されていなかった使用方もしている。今後、中大規模木造建築で構造用合板の需要をさらに拡大していく方法として、汎用的に使えるような非住宅用の階高の高い標準耐力壁システムがあれば便利だと思う。現場での施工や壁パネルのような形で工場生産するなどの方法は様々だが、このようなシステムに構造用合板が組み込まれれば設計者も今以上に使いやすくなるはずだ。